

# 手術で得られるメリット



## ワンちゃんの避妊手術

手術を受けることで、様々な病気の予防ができます。また発情のストレスから解放させるだけではなく、問題行動を改善できる可能性があります。

### どんな手術なの？

左右の卵巣と子宮を摘出する手術です。

術前検査の結果に問題がなければ、何歳でもできますが、初めての性成熟（生後6ヶ月位）前に実施するのが理想的です。

麻酔の覚め具合がよければ、**日帰り手術**になります。



### 予防できる主な病気

- 子宮蓄膿症 子宮内膜が腫れ、細菌感染によって子宮内に膿が溜まる病気です。子宮内の細菌が出す毒素により**全身状態が悪くなり命に関わります。**
- 卵巣腫瘍 卵巣が腫瘍化し症状が悪化すると、腹部が膨張し嘔吐や腹水などの症状が見られます。**悪性の場合には他の部位に転移する**恐れもあります。
- 乳腺腫瘍 ワンちゃんは、人の3倍乳腺腫瘍になりやすく、**約50%が悪性腫瘍**です。腫瘍が自潰して化膿すると悪臭を放ち、他の臓器（特に肺が多い）への転移は死を招くことになります。初回発情が来る前に手術をすると、**発生率が大幅に抑えられます。**



子宮蓄膿症の手術で摘出した子宮の例



乳腺腫瘍が自潰してしまった例

### その他の効果

- 望まない妊娠を防ぐことができます。
- 「偽妊娠」、「持続発情」といった性周期異常を避けることができます。
- 発情にともなう体調の変化やストレスから解放されます。



**大切な家族のためには、早期の手術をお勧めします。**

## 避妊手術のデメリット

### ● 麻酔の危険性

現在、人医療においても、「100%安全な麻酔」は存在しません。少しでも麻酔の危険性を減らすために十分な注意を払います。その為、当院では必ず術前検査を行ってからの手術になります。

手術中は各種モニターにより生体反応(心拍数、呼吸数、血圧、体温、動脈血酸素飽和度)を観察し、異常時に備えております。



### ● 太りやすくなる

男の子、女の子ともに発情ストレスがなくなり必要カロリーが少なくなります。手術前と同じ量のフードを食べていると太りやすくなる傾向がありますので、カロリーコントロールをおすすめします。太りにくいようにカロリー計算されているフードも販売しています。



### ● 繁殖ができなくなる

術後は、交配、出産ができなくなります。



## ワンちゃんの年齢換算早見表

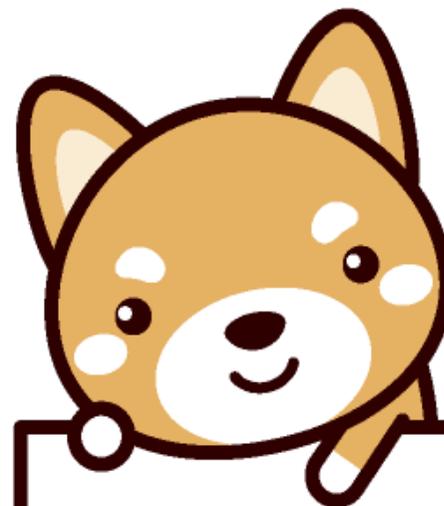
出産からの日数	小型・中型犬	大型犬
1カ月	1歳	1歳
2カ月	3歳	1歳
3ヶ月	5歳	2歳
6ヶ月	9歳	6歳
9ヶ月	13歳	8歳
1年	17歳	12歳
2年	24歳	19歳
3年	28歳	26歳
4年	32歳	33歳
5年	36歳	40歳
6年	40歳	47歳
7年	44歳	54歳
8年	48歳	61歳
9年	52歳	68歳
10年	56歳	75歳
11年	60歳	82歳
12年	64歳	89歳
13年	68歳	96歳
14年	72歳	103歳
15年	76歳	110歳

御不明な点は御気軽にスタッフまでお尋ねください。



成田動物病院 黒石  
☎ 0172-55-8520

## ワンちゃんの避妊手術について



避妊手術をすると様々な病気を予防できるため長生きにつながります。  
また、もらい手のないかわいそうな子を増やさないためにも、手術をしてあげようにしましょう。